

母子保健情報誌
等実施業務を
者養成研修等に係る研修
事業を受ける人材を養成することを目的としたもの。平成27年度は6種類のテーマで、平成27年度終了。

厚生省母子保健課の委託事業

平成27年度終了 28年度も

本会は平成27年度事業として、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課より「母子保健指導養成研修等に係る研修」を昨年に受

託し、これを終了した。本事業は、母子保健に関わる指導者などを対象に、主に研修会を通して十分な専門性を有する人材を養成することを目的としたもの。平成27年度は6種類のテーマで、平成27年度の各研修会受託している。

母子保健情報誌

全16回の研修会を行った(表)。

<http://www.jfpa.info/boshi/>



江戸時代から指摘されるたばこの害
原田氏はまず、江戸時代の本草学者・貞原益軒が著した「養生訓」を例

に挙げる。この書物はいわゆる健康について、益軒自身の実体験を交えて書かれたものだ。「執筆から300年以上たつているにもかかわ

らず、すでにたばこが毒である旨が記述されている」と原田氏は語る。また日本が2004年に署名し、たばこの害から現代および将来の世代を保護することを目的とした世界保健機関(WHO)枠組条約(FCTC)においても、同様のことが記載されていると解説する。

昔から変わらずたばこの害は認知され、警鐘が鳴らされているにもかかわらず、今日またに合法的に社会生活に組み込まれていることについて

は、「たばこの害についての講話でたばこが子どもに与えられる害についての講話では、たばこの害が及ぼす害と疾病確

率が生じる。たばこが及ぼす害と疾病確率によって低出生体重児や死産の危険性があり、最近の情報では、妊娠の喫煙と新生児の口唇・口蓋裂の関係についての認知が広まってきた

日本でも、日本学術会議によつて、08年に政府へ「脱たばこ社会の実現に向けて」という要望書が提出されており、徐々にはあるが一般

に、たばこの害についての認知が広まってきた。たばこの害についての認知が広まってきた

日本でも、たばこの害についての認知が広まってきた。たばこの害についての認知が広まってきた

日本でも、たばこの害についての認知が広まってきた。たばこの害についての認知が広まってきた

日本でも、たばこの害についての認知が広まってきた。たばこの害についての認知が広まってきた

日本でも、たばこの害についての認知が広まってきた。たばこの害についての認知が広まってきた

日本でも、たばこの害についての認知が広まってきた。たばこの害についての認知が広まってきた

が、2月8日に保健会館新館(東京都新宿区)で開催。今回は「たばこが子どもに与える害とその防ぎ方」と題し、国立成育医療研究センター・マスククリーニング研究室室長の原田正平氏が講義を行った。

たばこが子どもに与える害とその防ぎ方

第46回母子保健指導員研修会

とあらためて強調した。
子どもをたばこの害から守ること②受動喫煙から守ること③喫煙防止を吸わせないこと④教育として最初の一本

【開催日・テーマ・講師】
4月12日 「妊娠中から産後のマイナートラブル」アロマ&ハーブを使つたナチュラルケア」浅井貴子(助産師・アロマセラピスト・メディカルハーバリスト)

【開催日・テーマ・講師】
5月10日 「「気になる」子どもの行動と発達」榎原洋一(お茶の水女子大学副学長)

【開催日・テーマ・講師】
9月13日 「産後つづ」武者稚枝子(稚枝子おおつきクリニック院長)

【開催日・テーマ・講師】
10月11日 「予防接種最新情報」岡部信彦(川崎市健康安全研究所所長)

【開催日・テーマ・講師】
11月8日 「スキシングシップのチカラ」オキシントシンと愛着」山口創(桜美林大学心理・教育学系教授)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
4月12日 「妊娠中から産後のマイナートラブル」アロマ&ハーブを使つたナチュラルケア」浅井貴子(助産師・アロマセラピスト・メディカルハーバリスト)

【開催日・テーマ・講師】
5月10日 「「気になる」子どもの行動と発達」榎原洋一(お茶の水女子大学副学長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
9月13日 「産後つづ」武者稚枝子(稚枝子おおつきクリニック院長)

【開催日・テーマ・講師】
10月11日 「予防接種最新情報」岡部信彦(川崎市健康安全研究所所長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
11月8日 「スキシングシップのチカラ」オキシントシンと愛着」山口創(桜美林大学心理・教育学系教授)

【開催日・テーマ・講師】
12月13日 「甘えさせる」岩立京子(東京学芸大学総合教育科学部健康栄養学科教授)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
1月12日 「赤ちゃんとどう接したらよ

【開催日・テーマ・講師】
2月14日 「赤ちゃんの『食』を考える」佐藤加代子(東洋大学環境科学部健康栄養学科教授)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
3月14日 「こどもの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
4月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」佐藤加代子(東洋大学環境科学部健康栄養学科教授)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
5月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
6月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
7月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
8月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
9月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
10月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
11月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
12月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
1月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
2月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
3月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
4月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
5月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
6月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
7月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
8月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
9月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
10月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
11月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
12月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
1月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
2月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
3月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
4月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
5月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
6月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
7月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
8月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
9月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
10月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
11月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

【開催日・テーマ・講師】
12月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東京都立小児総合医療センター・アレルギー科部長)

平成28年度 母子保健指導員研修会

【開催日・テーマ・講師】
1月1日 「赤ちゃんの『食』を考える」赤澤晃(東

本会が主催する「生きるための心の教育セミナー」が1月23日と2月27日、それぞれ東京都文京区と宮城県仙台市で開催された。講師である渡會睦子氏に、性教育を行う上で指導のポイントと、本会発行のパワーポイント教材「生きるための心の教育」および、紙芝居型教材「伝えたい『生』と『性』」の効果的な活用法について講義いただいた。また、紙芝居型教材「伝えたい『生』と『性』」の制作にも携わった山形県の児童養護施設より庄司智氏、會田健司氏をお招きし、本教材制作の経緯と教材を使用した性教育の事例を提供いただいた。その一部を紹介する。

● 子どもたちに人生と一緒に考えさせる
性教育を行つ際には、まず、子どもたちに自分的人生をイメージさせるようとしている。

● 学校・教育関係者と連携を取るには
学校保健計画を立てて

● ホイントとは
渡會 睦子氏

さらに、学習指導要領にのつとつた内容にする

ということも重要である。

● ①経済的自立：自分自身

の生活を賄う収入を得

る。学生時代は将来の

自立の準備として金銭

管理の習慣を持つ。

● ②生活上の自立：衣食住

にわたる自分の身の回

の理解を得られにく

いから教えるが、学校側

も教えられるが、学校側

提供:サノフィ株式会社



髓膜炎菌による髓膜炎や敗血症などの感染症 (侵襲性髓膜炎菌感染症)にかかるとどうなりますか?

世界保健機関(WHO)は、侵襲性髓膜炎菌感染症(IMD)の治療を行わない場合、**50%**が**死亡**すると報告しています。

- 適切な治療を受けた場合でも、発症後24~48時間以内に5~10%の患者が死に至ります。

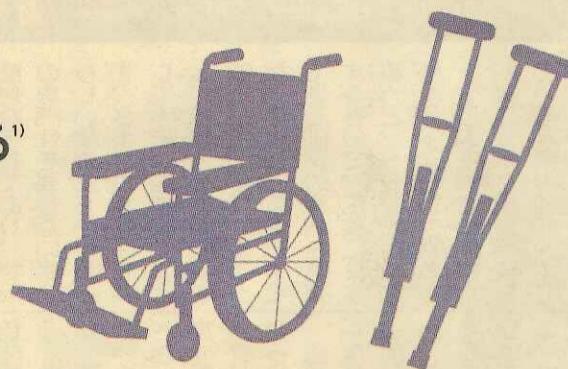
World Health Organization Fact sheet No 141 Meningococcal meningitis 2016年1月14日アクセス <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs141/en/>



侵襲性髓膜炎菌感染症(IMD)患者には適切な治療を受け回復した場合も、後遺症が残ることが報告されています

生存者の **11% ~ 19%** に後遺症が残る¹⁾

注)髓膜炎、敗血症の他には肺炎(5~15%)、関節炎(2%)、中耳炎(1%)、喉頭蓋炎(1%未満)が報告されています。²⁾



■ 後遺症の種類^{1),3)}

- ・広範な組織壊死による手足の切断
- ・神経障害
- ・聴覚障害
- ・痙攣
- ・麻痺
- ・精神発達障害
- など

1) Rosenstein NE, et al.: N Engl J Med 344 (18): 1378-1388, 2001

2) Centers for Disease Control and Prevention, Meningococcal Disease, Epidemiology and Prevention of Vaccine-Preventable Diseases, The Pink Book: Course Textbook -13th Edition Second Printing (April 2015)

3) Wkly Epidemiol Rec, 77 (40): 329-340, 2002

、どんな人や場所で多くみられますか?

■ 10代の日常生活に潜む

侵襲性髓膜炎菌感染症(IMD)罹患のリスク例⁴⁾



食器類の共有



ペットボトルの
回し飲み



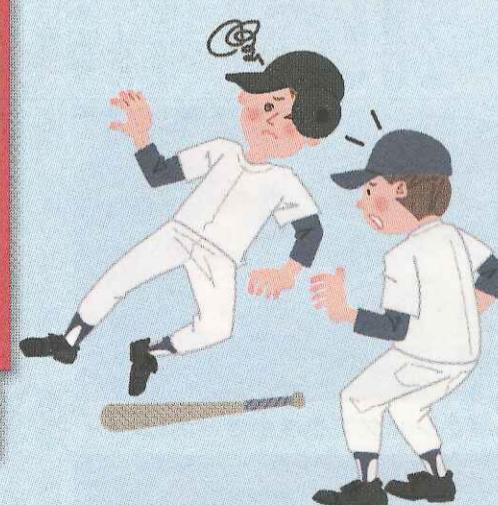
寮など狭い空間での
共同生活



キス

髓膜炎菌感染症のリスクは、日常生活の中にも!

日本国内では、2011年に高等学校の全寮制野球部寮で
侵襲性髓膜炎菌感染(IMD)の集団感染事例が報告されました



宮崎日日新聞 2011年5月18日掲載

4) Cushing K, Cohn A. Chapter 8: Meningococcal Disease. VPD Surveillance Manual, 4th Edition, 2008.
5) Centers for Disease Control and Prevention. Epidemiology and Prevention of Vaccine-Preventable Diseases.

Atkinson W, Wolfe S, Hamborsky J, eds. 12th ed., second printing. Washington DC: Public Health Foundation, 193, 2012

6) 国立感染症研究所 病原微生物検出情報 月報 Vol.34, P371-372 2013年12月19日発行

7) 厚生労働省 FORTH 2012年7月30日掲載(2016年2月4日アクセス:<http://www.forth.go.jp/topics/2012/07301519.html>)

8) Immunization Action Coalition Meningococcal: Questions and Answers <http://www.immunize.org/catg.d/p4210.pdf>



一般社団法人 日本家族計画協会
理事長 北村 邦夫

大切な子どもたちの命を守るためにワクチンを接種し、
侵襲性髓膜炎菌感染症(IMD)を予防しましょう



IMDのくわしい情報はこちから
www.imd-vaccine.jp

2016年3月作成 SPJP.MENAC.16.03.0046

サノフィ株式会社

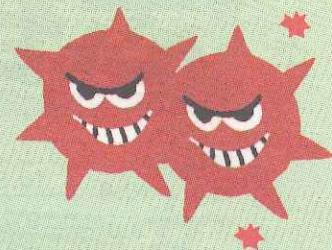
〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

SANOFI PASTEUR



Q

「髄膜炎」という病気を 知っていますか?



脳や脊髄を覆う膜の髄膜に、細菌が感染して炎症が起きた状態を細菌性髄膜炎と呼びます。

原因となる細菌には、インフルエンザ菌(ヒブ)や肺炎球菌、そして髄膜炎菌という原因菌があります。

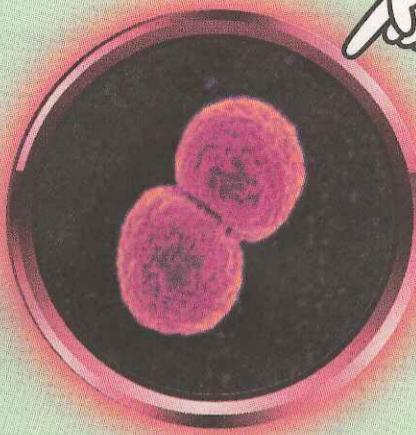
髄膜炎菌による髄膜炎は、咳やくしゃみなどによりヒトからヒトに移り、急激に重症化することがあります。



ヒブ(Hib)



肺炎球菌



髄膜炎菌

ヒブ(Hib) : インフルエンザ菌b型
(*Haemophilus Influenzae* type b)
Copyright : American Academy of Pediatrics

[http://www.cdc.gov/pneumococcal/
about/photos.html](http://www.cdc.gov/pneumococcal/about/photos.html)

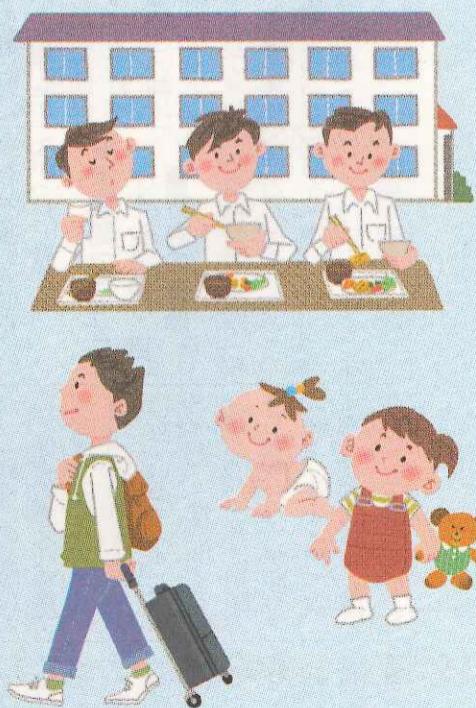
Q

髄膜炎菌による髄膜炎や敗血症(侵襲性髄膜炎菌感染症)は

- ・ 髄膜炎菌による髄膜炎や敗血症(侵襲性髄膜炎菌感染症)は、乳児や5歳未満の子供、11~19歳の学童や青少年に多くみられます。また、学生寮や部活動などの集団生活の場では、感染が広がりやすいので注意が必要です。
- ・ 海外でも流行している地域があり、欧米では散発的に流行がみられています。

■ 侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)のハイリスク因子

感染しやすい環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高密度集団/密集集団(寮に住む大学生、軍隊入隊者、メッカの巡礼者)⁴⁾ ▶ 流行地域への渡航や滞在⁴⁾ ▶ 喫煙/受動喫煙⁵⁾ ▶ 感染患者との接触がある介護者および家族⁴⁾ ▶ 髄膜炎菌を扱う企業または研究室で働くもの⁵⁾ ▶ 米国への留学生⁶⁾ ▶ メッカ巡礼者(サウジアラビア)⁷⁾
感染する可能性が高い人	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 乳児、5歳未満の小児、小兒および思春期児(11~19歳)⁴⁾ ▶ 上気道感染症⁵⁾ ▶ 終末補体欠損症⁵⁾ ▶ 無脾症²⁾、脾臓摘出者⁵⁾ ▶ HIV感染者⁵⁾ ▶ 発作性夜間ヘモグロビン尿症の治療中患者⁵⁾ ▶ 成人非典型溶血性尿毒症候群の治療中患者⁵⁾



侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)は、ワクチン接種で予防できる病気(VPD)です

2015年7月28日~8月8日に山口県山口市で開催された第23回世界スカウトジャンボリー(WSJ2015)には、152カ国から約3万4千人が参加しました。参加者は14~17歳のスカウトと引率者等で、このうち日本人は約6千人でした。ところが、ジャンボリー終了後、スコットランド隊のスカウト3名とスウェーデン隊のスカウト1名が侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)を発症しました。積極的な疫学調査が行われた結果、この大会での感染が確実視され、世界スカウト機構もボーイスカウト日本連盟も参加者への注意を喚起しました。

髄膜炎菌は健康人の喉にも存在し、感染しても全く症状が出ない場合や咽頭痛などの軽い上気道症状のみが出る場合がほとんどですが、稀に血液や中枢神経に感染が広がって重い症状を呈することがあります。近年、スポーツに限らず国際的な交流の機会はますます拡大しています。2020年には東京オリンピックも開催されます。迎える側も、迎えられる側も、髄膜炎菌ワクチンをはじめ各種予防ワクチンの接種の必要性をもっと知って、安心・安全の環境の下で国を超えた交流を楽しんで欲しいと願っています。

＼4月から新登場！／ JFPAの新作！健康メモ29点

健康メモとは

A4のチラシが1冊に50枚つられた指導表。種類はすでに250を超え、保健指導時やママパパ学級での配布など、さまざまなシーンでお使いいただける教材です。

仕様：A4判ペラ 表カラー・裏2色刷 1冊50枚（天のり製本） 價格（税別）1,300円（多部割引あり）

母子保健 ママと赤ちゃんの健康サポートシリーズ 5点

日本助産師会出版
との
コラボ新シリーズ！

妊娠中から産後のママと赤ちゃんの健康をサポートする、情報満載の新シリーズ。日本助産師会出版とのコラボレーションで制作された本シリーズは、「気になるけれど、正しい情報が分からない」「相談にどう答えていいか分からない」といった、現場でのニーズにお応えする内容を、選りすぐっています。

監修：岡本喜代子（日本助産師会会長）、
市川香織（文京学院大学准教授）他
企画・制作：株式会社日本助産師会出版



本シリーズは、今後さらにたくさん
のテーマでの制作を予定しています。
ご期待ください！

栄養指導 食習慣改善シリーズ 24点

夕食をとる時間が遅い、飲み会が多いなど、問題となりがちな食生活のひとコマから、具体的な改善策を提示する、栄養指導の新シリーズ。さまざまな保健指導対象者の行動目標の実行をサポートするため、豊富なテーマでそろえています！

著者：クオリティライフサービス
管理栄養士 小島美和子

*本シリーズの著者・小島美和子先生が行う「栄養指導を結果につなげるセミナー」も開催。まずは3面の予定表をご覧の上、詳しくはお問い合わせください

①太らないおやつの食べ方



24の豊富な ラインアップ！

【間食の食べ方を見直す】

- ①太らないおやつの食べ方
- ②血糖値を上げないおやつの食べ方
- ③からだにやさしいおやつの食べ方

【飲酒習慣を見直す】

- ④太らないお酒との付き合い方
- ⑤血糖値を上げないお酒との付き合い方
- ⑥からだにやさしいお酒との付き合い方

【遅い時間の飲食習慣を見直す】

- ⑦遅い時間の太らない食べ方
- ⑧夕食が遅い人の血糖値を上げない食べ方

【夕食のカロリーを見直す】

- ⑨太りにくい夕食選び
- ⑩血糖値を上げにくい夕食選び

【食事のリズムを見直す】

- ⑪太らない食事のリズム
- ⑫血糖値を上げない食事のリズム

【食卓のバランスを見直す】

- ⑬太らない食卓バランス
- ⑭血糖値を上げない食卓バランス
- ⑮コレステロール値を上げない食卓バランス

【脂質のとり方を見直す】

- ⑯飽和脂肪酸の上手な減らし方

【主菜バランスを見直す】

- ⑰コレステロール値を上げない主菜バランス
- ⑱からだの脂肪を増やさない主菜バランス
- ⑲からだにやさしい主菜バランス

【副菜の摂取量を増やす】

- ⑳太らない副菜のとり方
- ㉑血糖値を上げない副菜のとり方
- ㉒コレステロール値を上げない副菜のとり方
- ㉓血圧を上げない副菜のとり方

【食塩の摂取量を控える】

- ㉔血圧が高めの人の料理選び

「食習慣聞き取りシート」併用で、さらに指導効果アップ！

「食習慣聞き取りシート」は、効果の高い栄養指導を行うためにつくりられた「紙芝居型」の教材。表面は対象者の食習慣を、イラストを見ながら振り返り、正確な情報を漏れなく聞き取ることができます。裏面では、対象者の食習慣と検査値を整理したポイントから、効果的な改善点と行動目標を導くことができるよう設計されています。詳しくは本会「教材・備品カタログ2016年版」、またはお問い合わせください。



購入・お問い合わせは 日本家族計画協会 TEL 03-3269-4727 FAX 03-3267-2658

妊娠前の使用でも 安全な経口避妊薬(ピル)

海外情報クリップ

◆ デノマークの大規模コホート調査
欧米では、ピルの使用を始めた女性のおおよそ9%は、最初の1年間に避妊に失敗すると推計されています。飲み忘れや一時にピルが使用できなくなったりするなどの原因が多いといわれています。

一方、ヒトの先天異常は出生児全体の3~5%とされ、多くは染色体異常など偶発的に起きるものですが、母親の感染症や化学物質・薬剤などの環境因子が原因とされる場合も5~10%程度あるとされています。(日産婦誌59巻9号)。

ハーバード大学の医学グループは、ピルに含まれているホルモン成分が新生兪の先天異常に関連するのか否かを検討する

ため大規模な疫学調査を行った結果では、「この調査結果から見て、ピルの使用中止直後あるいは使用中の妊娠に関連した先天異常の有意な発生率の上昇は認められなかつた」、また「妊娠の意図があつてピルを中止した場合や、何らかの理由で避妊を考えられる」ということが示されました。

研究グループが対象としたのは先天異常のサバイラントスが古くから確立されており、ピルが広く普及しているデンマークの全国人口動態のデータ

で、その後中止してしまった。この場合の先天異常発生数は出生子件当たり2千例(2・5%)を妊娠前に比較しました。この場合に、妊娠からさかのぼって3か月以上まで比較しました。

一方で、妊娠直前から妊娠前にピルを中止した症例、妊娠直後後にピルを中止した症例、妊娠直後後にピルを中止した症例、妊娠直後後にピルを中止した症例など、既往歴が複数ある場合は、それが原因となる可能性があります。

一方で、2010年にノースウェスタン大学産婦人科准教授のキヤサン・スティカ医師らが行った家庭医の調査から、

タシル看護師らは、2008~12年にかけて、14~25歳の思春期の患者約1700人を対象に、

医薬品の中には、妊娠分娩が影響があるため、妊娠している女性には投与してはならないものがあります。特に、胎兪奇形のリ

避妊カウンセリングが伴う胎兪の神経管の形成に不可

能性があるとしています。この研究でピル使用中止について、「ホルモン成

分の影響で血中の葉酸濃度が下がるが、服薬中止後約3か月で正常値に戻る」と考

べられています。葉酸は胎兪の神経管の形成に不可能性があることが知られています。

一方で、2010年にノースウェスタン大学産婦人科准教授のキヤサン・スティカ医師らが行

った家庭医の調査から、

タシル看護師らは、2008~12年にかけて、14~25歳の思春期の患者約1700人を対象に、

医薬品の中には、妊娠分娩が影響があるため、妊娠している女性には投与してはならないものがあります。特に、胎兪奇形のリ

避妊カウンセリングが伴う胎兪の神経管の形成に不可

【講師】榎原洋一(お茶)	【テーマ】「『気による』子どもの行動と発達」
【会場】TKP市ヶ谷センターフラレンスセンター	【日時】5月10日(火)13時
【対象】母子保健に携わる保健師、助産師、看護師などの有資格者	【参加費】当日参加300円(会員以外で当日参加希望の方は、必ず前に電話またはファックスで問い合わせ) 本会で問い合わせ
FAX 03(3269)2658	※年間予定は、3面。詳細は本会HPまで。

00円(会員以外で当日参加希望の方は、必ず前に電話またはファックスで問い合わせ) 本会で問い合わせ

渡邊氏の性教育講演風景



中学校・高校に講演にあつて実の親とは暮らせ行くと、私はいつも生徒の一番後に、頭を足の間に突っ込んで、ちょっとふれてくされた風の子どもの影が見えます。それは私が過去に出会った、養護施設の子どもたちの姿と重なります。両親が里親をしていた関係で、私が子どもの頃から、何人かの、事情が

里子さんたちとの出会い

丸山産婦人科医院(長野県長野市) 渡邊 智子
産婦人科医による性の健康教育「私のキーワードはこれだ! その13 決められた運命 变えられる未来」とは何かを考え、私は「決められた運命 变えられる未来」という話を

話題、子どもなのに苦しむ経験をしているのだなあと心が痛む思いでしました。この子たちが施設で暮らさなければいけないのは、大人の事情で決して子どものせいではないのですから、理

由になり、どんな話をし

ました。

学校へ性教育に行くよ

うになり、子どもたちと同じように、どうか考

えて、決して子どものせいではない

ではありません。だから、理

由で、決して子どものせい

ではありません。だから、理

由で、決して子どものせい